とかち新聞
主筆　松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町 とかち新聞社　電話⑥2551番
(毎旬5の日発行)　1カ月200円　1カ年前納の場合2,000円

記念式のあたり年

ことしは三十年、六十年年記念式典を組合本部で七十年といった大型の記念式典行事のあたり年でしたが、何十年かに一度というこれらの催しもそれぞれの特色をみせていました。

×

そのトップを切って足寄町開拓農業協同組合では九月十日に、組合創立三十周年記念式典を組合本部でおこなわれました。

この日は組合員もその家族も「みんないらっしゃい」といった形で、この種の式典につきものの表彰は創立当初の功労者二人だけにとどめて、祝宴の方は焼肉やジンギスカンやおでんなどの模擬店で自由にふるまうという風景でした。

×

九月二十三日は関寛斎ブロンズ像の除幕式につづいてスポーツセンターで陸別町開基六十年、町制施行二十五周年の記念式典をおこないました。

式は政法の紋切り型ですすめられ、表彰の対象も町の役職に永年勤続の人々が主でした。

×

足寄町の開基七十年の記念式典は十月二十日に、なにしろ広い会場がないので西小学校体育館でおこなわれました。

陸別町の関寛斎のように町内外から尊敬されるほどの開基功労者もいないところからか、町に五十年以上在住して七十才以上の老人一人々々の席へ贈呈してまわりましたが、事つきテーブル二台を使ってのスピーディーに壇上にあがって表彰を受ける、それを一々写真に撮る、つづいて優秀組合員団体、歴代参事から職員の勤続二十五年以上、二十年以上、十五年以上への表彰祝電ですませていました。

九月二十三日に陸別町林町長が感謝状と記念品を二百四十五名を招いて、小一人々々の席へ贈呈してまわりましたが、事つきテーブル二台を使ってのスピーディーに壇上にあがって表彰を受ける、それを一々写真に撮る、つづいて優秀組合員団体、歴代参事から職員の勤続二十五年以上、二十年以上、十五年以上への表彰祝電ですませていました。

例によって斉藤組合長の式辞のあとは、歴代組合長から常勤役員、非常勤役員も二十年以上、五年以上、十年以上、五年以上、五年以下という具合にブロックごとの模範店で自由にふるまいでもの二十分あまりで〝配達〟をおわりました。

×

足寄町農業協同組合の創立三十周年記念式典は十一月十八日に公民館でおこなわれました。

例によって斉藤組合長の式辞のあとは、歴代組合長から常勤役員、非常勤役員も二十年以上、五年以上、十年以上、五年以上、五年以下という具合にブロックごとの模範店で自由にふるまいでもの二十分あまりで〝配達〟をおわりました。

記念行事のしめくくりは十二月一日の公民館での足寄町農民同盟結成三十周年記念式典で、農協の催しを小型にした形ですが、ひところ八百名もの盟友を擁していたものの、いまでは難しい別に壇上にあがって表彰を農そのほかで三百六十名に激減しましたが、しかし現職の代議士が出席したのはこの式典だけで、ほかは全部、代理の秘書かあるいは代議士の挨拶でおわりました。

感謝状の贈呈などがエンエンと一時間半もつづいたことです。

このなかで歴代組合長九名が表彰をうけたものの、すでに七名は故人で現存しているのは初代の近藤悦朗氏と現組合長だけでした。

×

思われてきたこの国で、故郷を離れないさとうや松山の歌が、なぜもてはやされ始めたのだろうか▼「本当はテレビでは歌いたくない」と番組の中でつぶやいた松山の言葉は、はったりとも、いやみとも聞こえなかった。ブラウン管を通して目に見えない不特定多数に向かって歌うより、人数は少なくても、じかに反応がわかる場所で歌いたいという言い方はさわやかで、説得力があった。そして「東京へ行かない」さとうや松山の歌がヒットしている理由も、どうやらそこにある▼中央対地方などというしかめつらしい議論ではない。手で触れ、確かめられる感覚を信じたいという姿勢が共感を呼ぶ時代なのである。若者たちがラジオの深夜放送に耳を傾け、タウン誌を読みふけるのもそのためだろう。松山のテレビぎらい発言は、肥大したマスコミ全体に対する批判のように聞こえた。

これは東北六県を基盤とする「河北新報」の冴一〇〇を見た。

彼は、毎日のようにテレビに顔を見せている世良公則やピンク・レディー、沢田研二を抜いて一番になったという。しかし、彼の出演したのはそれは寂しい舞台だった。

テレビはラジオと違って見せる要素の含まれるのが当然でしょうが、あまりにも華美に走りすぎ、歌の根本を忘れてしまっていいのではないと思います▼

これは「朝日新聞」の投書欄に掲載されたものでつぎは「北海道新聞」に載ったものです。

『松山千春が初めて出演するというHBCの「ザ・ベストテン」（十六日後九・〇〇）を見た。

彼は、毎日のようにテレビに顔を見せている世良公則やピンク・レディー、沢田研二を抜いて一番になったという。しかし、彼の出演したのはそれは寂しい舞台だった。

だれもいない劇場で一人ぼっちでうたいギターをかかえて座っていた。「ありがとう」とか言った。胸にじんと響くものがあった

わずか数分の場面でしかなかったけれど、華やかだがいつも同じバラエティーショーといえるこの番組のなかに、すばらしいドラマを見た思いがした』

★　★

美国町のK・Kさんから『ある雑誌に「もしあなたが本当にコンサートだけを好きならば、レコードを吹き込むのをやめるべきが筋道ではないでしょうか…」私これ読んだ時、なにも言えませんでした。

だって私は外見では千春を理解しているつもりでも心の中で疑問をもっていたからです。レコード吹き込むときってガラスの張った室の中へ入って、ガラスの前には難しそうな顔をした人たちがいるだけなんでしょう、そんな中で千春は本当の歌を歌えるのでしょうかけど千春がレコード出さないと私達ファンも困つちゃうからレコードは出してもらわなきゃ困るけど…。

そして私が一番疑問に思ってることは、千春まだ売れてない時にテレビのハイ大沢です」なんか出たでしょうか、大キライなカメラの前で歌ったでしょうそれなのに売れてる今、テレビを拒否するのでしょうか

私だって千春にはテレビなんか出てほしくありません、千春のすべてがテレビでわかる筈がないから、けど、どうして千春は売れてない時にテレビ出演をことわらなかったのでしょうか私にはわかりません。

でも私にも一つだけ言えることがあるんです、千春はザ・ベストテンに出た時からこんな考えをもつ人が出るんだってことわかっていたんだってことは…だけどいつだって自分の歌を歌えるようにと思ってるんです。

だから私もそんな千春のように生きていきたいと思います、いつだって自分のこれと思った道に向って生きていく千春のように生きてみたいと思います』

★　★

いろいろご意見を頂いていますが、千春の場合は昨年一月二十三日のNHK教育テレビ「若い広場」がはじめてで、あとローカル番組に数回出ました。

しかしザ・ベストテンのような歌番組にはこれが最初で最後だというわけで、自分のなっとくできるものという考えです。

テレビ不出演の反響

松山千春

「オレ、本当はカメラの前で歌うの、寂しくってやんなんです」―テレビで一度も歌ったことのない北海道在住の人気歌手松山千春が、今週のTBS系テレビ歌謡番組「ザ・ベストテン」に初めて出演した。歌うまでの歌手を全国どこにいても、いや外国旅行中でも追いかけて、生中継で歌わせる異色番組として人気を集めている、しかし松山は自作曲「季節の中で」がこのところ常にベストテンに入りながら「テレビには出ない」と出演を拒否し続けてきた。その間にも、彼の曲の人気は急上昇。今週はついに、十週連続トップに立っていた世良公則・ツイスト の「銃口」に代つて、一位に選ばれてしまった▼松山は「青葉城恋唄」でヒットしながら、決して仙台を離れようとしないさとう宗幸と、生活態度がよく似ている。北海道の釧路に近い足寄町に生まれた彼はテレビ出演を断りつづけ、昨年春「旅立ち」でデビュー以来、どんなに人気が出ても故郷を捨てない▼あらゆる面で中央集権化が進み東京へ行くことが成功するための重要なステップだと思われてきたこの国で、故郷を離れないさとうや松山の歌が、なぜもてはやされ始めたのだろうか▼「本当はテレビでは歌いたくない」と番組の中でつぶやいた松山の言葉は、はったりとも、いやみとも聞こえなかった。ブラウン管を通して目に見えない不特定多数に向かって歌うより、人数は少なくても、じかに反応がわかる場所で歌いたいという言い方はさわやかで、説得力があった。そして「東京へ行かない」さとうや松山の歌がヒットしている理由も、どうやらそこにある▼中央対地方などというしかめつらしい議論ではない。手で触れ、確かめられる感覚を信じたいという姿勢が共感を呼ぶ時代なのである。若者たちがラジオの深夜放送に耳を傾け、タウン誌を読みふけるのもそのためだろう。松山のテレビぎらい発言は、肥大したマスコミ全体に対する批判のように聞こえた。

これは東北六県を基盤とする「河北新報」の冴一〇〇を見た。

彼は、毎日のようにテレビに顔を見せている世良公則やピンク・レディー、沢田研二を抜いて一番になったという。しかし、彼の出演したのはそれは寂しい舞台だった。

だれもいない劇場で一人ぼっちでうたいギターをかかえて座っていた。「ありがとう」とか言った。胸にじんと響くものがあった

わずか数分の場面でしかなかったけれど、華やかだがいつも同じバラエティーショーといえるこの番組のなかに、すばらしいドラマを見た思いがした』

★　★

美国町のK・Kさんから『ある雑誌に「もしあなたが本当にコンサートだけを好きならば、レコードを吹き込むのをやめるべきが筋道ではないでしょうか…」私これ読んだ時、なにも言えませんでした。

だって私は外見では千春を理解しているつもりでも心の中で疑問をもっていたからです。レコード吹き込むときってガラスの張ったかけど千春がレコード出さないと私達ファンも困つちゃうからレコードは出してもらわなきゃ困るけど…。

そして私が一番疑問に思ってることは、千春まだ売れてない時にテレビのハイ大沢です」なんか出たでしょうか、大キライなカメラの前で歌ったでしょうそれなのに売れてる今、テレビを拒否するのでしょうか

私だって千春にはテレビなんか出てほしくありません、千春のすべてがテレビでわかる筈がないから、けど、どうして千春は売れてない時にテレビ出演をことわらなかったのでしょうか私にはわかりません。

でも私にも一つだけ言えることがあるんです、千春はザ・ベストテンに出た時からこんな考えをもつ人が出るんだってことわかっていたんだってことは…だけどいつだって自分の歌を歌えるようにと思ってるんです。

だから私もそんな千春のように生きていきたいと思います、いつだって自分のこれと思った道に向って生きていく千春のように生きてみたいと思います』

★　★

いろいろご意見を頂いていますが、千春の場合は昨年一月二十三日のNHK教育テレビ「若い広場」がはじめてで、あとローカル番組に数回出ました。

しかしザ・ベストテンのような歌番組にはこれが最初で最後だというわけで、自分のなっとくできるものという考えです。

ニュースを斬る

福田政権から大平政権へ

◆…にしろ総裁即総理大臣という最高権力の座を手に入れようというのに、百五十万人の党員、党友に向って各派閥がしのぎを削っている中で、ただ手ブラで票をあつめることができるものでしょうか、だれが公選ともなればなおさら金がものをいうことは当然のことです。

◆…福田政権から大平政権の自民党内での政権異動―つまり政権タライまわしは、総裁公選の名による金権と物量によるたたかいだったといわれています。

◆…それはそうでしょう、社会党員や共産党員のように国民大衆に奉仕、献身する立場で、かなりの党費を負担したうえで、手弁当で社会正義のためにたたかっているのに、それ（なかには社会党や共産党員も）を利用して議員になるために、自民党の方々は金がものをいうこの資本主義社会がお好きなのですから、総裁公選ともなればなおさら金がものをいうことは当然のことです。

◆…たしかにそうではあっても、教いになるのは、明治三十八才と称して威勢のいいタカ派ぶりを発揮していた福田政治がどちらかといえば慣頂で柔軟性があってハト派寄りになったことです。

◆…たとえば福田氏は、中曽根、中川氏らのタカ派軍団がうごめいており、そのうえに民党の方針では現在の憲法を改正して軍隊をもつことを決定しているのに、それをいつたいどうするのかということです。

◆…福田氏をはじめ中曽根、中川氏らのタカ派軍団がうごめいており、そのうえに民党の方針では現在の憲法を改正して軍隊をもつことを決定しているのに、それをいつたいどうするのかということです。

◆…万一他国から奇襲をうけた場合にはいまの自衛隊法では不充分なので有事立法が必要だとして、イザというとき自衛隊法では不充分なので有事立法が必要だとして、イザというとき自衛隊法では不充分なので有事立法が必要だとして、イザというとき